

情報かわらばん『血管撮影装置 更新』

循環器内科 齊藤 尚孝 診療部長

低被ばくを実現する
血管撮影装置を導入

函館中央病院

函館中央病院（函館市）はこのほど最新型となる血管撮影装置の運用を開始した。導入したのは、フィリップス社製「Azurion7シリーズB12/12 with Clarity IQ」で道南では初。高性能のX線管球を有し、低い線量でも高画質の撮影が可能。その分、撮影時間も短くて済む。

「通常は線量が多いほど画質が綺麗になるのですが、その分被ばく線量が増加します。今回の機種は一度に縦横2方向からの撮影が可能で、その分造影剤の量も少なくて済みます。被ばく線量は従来の機種

に比べ50%程度少なく済み、撮影時間も2〜3割程度短く、患者さんの負担軽減につながっています。当院は小児科でも心臓の検査を行うっており、新機種のメリットは大きいです」と循環器内科の齊藤尚孝診療部長兼医療安全管理室室長は評価する。

検査中に確認するモニター

は58インチの大画面で、操作はすべてタッチパネル式で操作性にも優れている。画面は自由に分割することが可能で、CTなど他の検査画像等必要



一度に縦横2方向からの撮影が可能な血管撮影装置

な情報を随時呼び出すことができる。画像表示等は、従来診療放射線技師が操作室で操作することが多かったが、検査室で直接操作できるようになったこともメリットにつながっている。

「血管造影の際でも超音波による血管の断面と同時に、他の見たい検査画像を直接表示しながら検査や治療に役立てることができず。狭心症や心筋梗塞等心臓疾患の検査では、そのまま治療に移行するケースも多く、より多くの患者さんへの対応が可能になりました」と今後の活用に期待を寄せる。